

株式会社かわでん、九州工場に太陽光発電設備を導入

再生可能エネルギーの活用により、環境負荷の低減と BCP(事業継続計画)対策を両立

2025 年 4 月 3 日
株式会社かわでん

株式会社かわでん（本社：山形県南陽市小岩沢、代表取締役社長 相澤 利雄、以下当社）は、当社九州工場（佐賀県佐賀市大和町）において、環境負荷の低減と BCP（事業継続計画）対策の両立を目的とする太陽光発電設備と蓄電池をセットで導入し、本年 3 月より稼働を開始しました。



九州工場屋根とカーポートに設置した太陽光パネル、大容量蓄電池と当社製配電盤

九州工場屋根と駐車場のカーポートに設置した太陽光パネルにより発電される年間 50 万 kWh の再生可能エネルギーを自家消費することで、年間 240 t -CO₂ の GHG（温室効果ガス）排出量の削減が見込まれます。また、余剰電力を 200kWh の大容量蓄電池により有効活用することで、効率的なエネルギー利用と非常時の BCP 対策の両立が可能となります。

【設備概要】

- ・ 導入拠点：株式会社かわでん 九州工場（佐賀県佐賀市大和町）
- ・ 設備規模：
 - ①太陽光発電設備システム：容量 505.72kW
 - ②大容量蓄電池：定格出力：100kW、定格容量：200kWh
- ・ 年間想定発電量：50 万 kWh（GHG 排出量 240 t -CO₂/年 削減見込み）
- ・ 発電用途：自家消費、非常用電源（BCP 対策）
- ・ 運転開始：2025 年 3 月

【導入の目的と特徴】

1. 環境負荷の低減

① 太陽光発電・ソーラーカーポートおよび蓄電池による GHG 排出量削減

屋根に設置した太陽光発電と駐車場を有効活用したソーラーカーポートの導入により、年間で GHG 排出量 240 t-CO₂ の削減が見込まれます。再生可能エネルギーである太陽光を最大限活用することで、環境への負荷を軽減し、地球温暖化対策に貢献します。

② 太陽光発電の余剰分を蓄電池により有効利用

太陽光発電によって発生した余剰電力を蓄電池に蓄えることで、効率的な活用ができます。また、ピークカット機能によるデマンド低減により、負荷平準化にも貢献します。

2. BCP(事業継続計画)対策

① 蓄電池の設置による BCP 対策の強化

蓄電池は非常時に BCP 対策として特定負荷への電源供給を実施します。

これにより、災害時においても安定した電力供給が確保され、事業継続性が向上します。

② 停電時にも太陽光発電から電力供給

災害発生時には自立運転システムにより、停電状態でも一部の太陽光発電からの電力供給が可能となります。また、昼間に充電した蓄電池を活用し、夜間においても工場棟避難エリアや駐車場エリアに必要な電力を供給することができます。

具体的には、以下のような BCP 対策を図ります。

工場棟避難エリアへの電源供給

- ・休憩室、トイレ、シャワー室などへの照明
- ・自動販売機、コンセントへの電源供給

災害時における電力供給は、従業員に安心感を与えられるとともに、事業継続性を確保することで、事業の早期再開が可能になります

駐車場エリアへの電源供給

- ・カーポート照明や非常用コンセントへの電源供給

災害発生時には、地域住民への避難場所としての支援が可能となり、電力供給により地域の防災対策の強化に貢献できます

このように、環境負荷の低減と BCP 対策を両立したシステムは、持続可能な社会の構築に向けて重要な役割を果たします。また、再生可能エネルギーの活用と災害時の備えを組み合わせることで、脱炭素社会の実現と地域社会の安全性確保について、両面から貢献することができます。

当社は、パリ協定に基づく GHG 排出量削減目標に沿って、2050 年までに GHG 排出量実質ゼロを目指しています。2030 年までにスコープ 1、2 で 50%の削減を目指し、再生可能エネルギーの活用を推進してまいります。

※ニュースリリースに記載された情報は、発表日現在のものです。最新の情報と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。